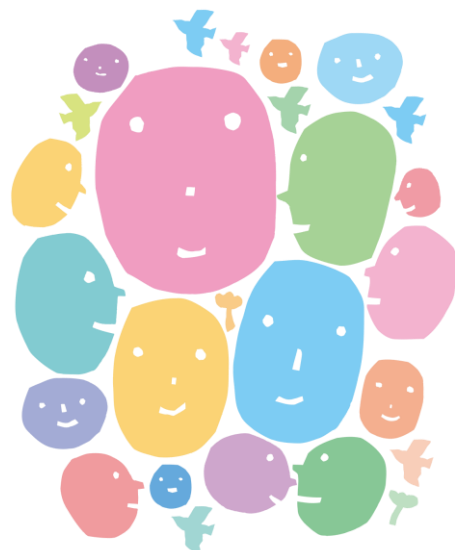




 西区社会福祉協議会

福祉教育（出前講座）のご案内





はじめに



「ふくし」 = ふだんの 暮らしの しあわせ

「福祉」というと何をイメージしますか？

高齢者、障がい者など限られた人の特別なものというイメージを持つ人もいるかもしれません。

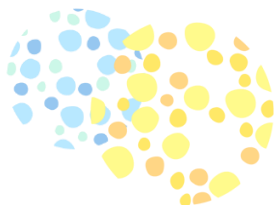
「福祉」とは「しあわせ」のことです。しあわせになれるのは限られた人だけでしょうか。

福祉は地域に住む一人ひとりの、わたしやあなたのしあわせのことです。

社会福祉協議会の福祉教育では、福祉を他人事ではなく我が事として考えられるようプログラムを工夫しています。



ともに生きる力



文部科学省は、学習指導要領で「生きる力」を育むことを学校教育の目標に据えています。

福祉教育でも、一人ひとりの生きる力だけでなく、性別、障がい、国籍、世代、色々な個性などを越えて、他者と共に生きるということを目指しています。

地域共生社会を実現するために、一人ひとりの福祉の意識に働きかけていくことが大切であると考えています。そしてそれは、子どもたちが自分で考え、行動していくことにもつながっていきます。

子どもたちが自分の暮らしに落とし込めるかどうか



福祉教育は、子どもたちが地域やまわりの人たちとの関わりを通して、そこにどのような福祉課題があるかを学び、その課題を解決する方法を考え、解決のために行動する力を養うことを目的としています。身のまわりの人たちの多様な暮らしに触れ、どんな工夫がされているのかを考え、相手を理解しようとする気持ちを育てていくのです。

ただ知識として「知る」だけでなく、どのようにして接点を持つかの工夫が大切です。

福祉教育プログラムの中で、一緒に考えていきましょう。





ちょっと待って！ 疑似体験の落とし穴

かつて、相手のことを理解するために「疑似体験」をしてみよう、という考え方がありました。しかし、安易な疑似体験の実施は、不便だけが強調され、「かわいそうな人たちを助けてあげよう」という「貧困的な福祉観」をつくってしまうおそれがあります。大切なのは関わり方です。何ができないかではなく、その人の持つ強みに着目しながら、その人のことを知り、さらに、障壁を作っている社会の側のことを知る必要があります。



地域のみなさんと一緒に取り組みましょう

社会福祉協議会は、社会福祉法に規定されている地域福祉を推進する団体です。日頃から地域のみなさんと一緒に地域づくりを考えています。新潟市コミュニティスクールの考え方にも「地域とともにある学校」とある通り、福祉教育の現場でも積極的に地域のみなさんと交流する機会を設け、自分たちの暮らす地域にあるおもいやりの活動に触れてもらえたらと思います。当事者団体や地域活動とおつなぎするコーディネートも行っています。「障がい当事者」ではなく、「地域に暮らす〇〇さん」という出会い方で子どもたちが接点を持てることを大切にしています。ぜひご相談ください。

福祉教育は、ひとつの正解を教えるものではありません。
どうしたら共生のくらしを作っていくことができるか
一緒に悩み、考えながら共有していく過程です。

さあ、ようこそ福祉教育の世界へ！



福祉の学習のポイント

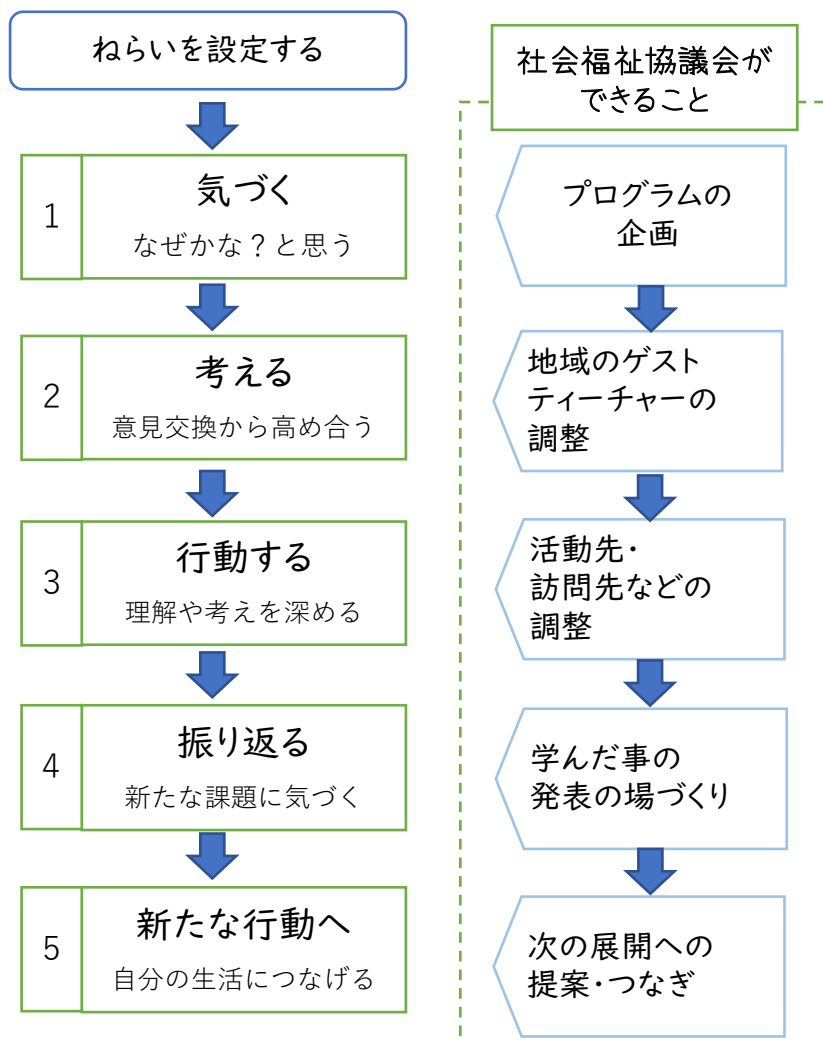
●学習の目的・ねらいを明確に

子どもたちが何のために学ぶのか、最終的に子どもたち自身の生活にどのようにつながるのかを明確にしていきましょう。

●主体的に考える力を育てる

福祉教育は、現実の課題に向き合う学習であるため、誰も確実な答えをもっているわけではありません。「正解を教わる」のではなく、「解決策を一緒に考える」というものです。受動的に知識や価値観を受け取るだけでなく、子どもたち自身が主体的に考え、解決に向けてのヒントをつかみ取ることが大切であると考えています。

学習のすすめ方の提案



ぜひ、ご相談ください



「福祉教育授業」の実践例

気づく

- 例** 「ふくしてなあに？」
「あの施設はどんな人がいるの？」
「聞こえないひとのくらしって？」
「誰が使うの？どんな意味あるの？」



歩道にあるボツボツ
大切なものだったんだね

ふくして
わたしにも
関係あることなのね



考える

- 例** 「見守り隊さんの正体は？」
「いろいろなコミュニケーション方法」
「車いすでのお出かけって？」
「おじいちゃんの楽しみって？」



コミュニケーションで
声だけじゃないって
知ってた？手話、筆談…
いろいろあるね！



行動する

- 例** 「認知症サポーターになりたい！」
「地域の優しさポイントを探そう！」
「パラスポーツを知りたいな」
「コロナ禍でもオンラインで交流！」

車いす利用者さんが
自分で車を運転！
目のみえないひとが
自分で洋服も選んでる！
ビックリ！
僕はまだ運転できないし
服もお母さんと一緒に
選んでるよ。



施設のみなさんへ
クラスみんなで歌を歌っ
たり、クイズをしたり。
オンラインだったけど
喜んでくれた。

もっとお話したい

振り返る

- 例** 「自分とちがうところ、おなじところ」
「私はこう思った。みんなはどう？」
「大切なことがわかった。
誰かに話したい。知って欲しい！」
「私にできることってなんだろう？」

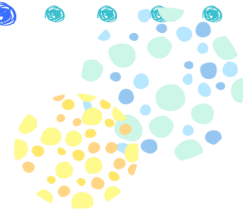
新たな行動へ

- 例** 「地域のボランティア活動
お手伝いやあいさつ運動に参加」
「もっと工夫して優しいまちに！」
「ポスター、展示物で呼びかけよう」
「お世話になっているひとに
手紙や写真でありがとうを伝えよう」

福祉教育から教科の応用としても
活用いただけます。

例：国語～点字にふれる授業
生活～まちのバリアフリー発見
など

学習のふりかえり



●ふりかえりシートを活用して、学習のふりかえり

福祉教育プログラムを学んでいく中では、ふりかえりの機会を通して、どう感じ、何に気づいたのか、活動を通じてどのように考えが変わって、これからの地域での生活にどのようにつながりたいのか、確認する時間をもつことが大切です。ワークシートなどを利用して、ふりかえりの内容を一緒に考えていきましょう。

<例>

- ・自分との違いや、同じはどんなことだろう。
- ・子どもたちが感じてきたこと、考えたことを報告しあう。
- ・自分たちで出来ることはないか、みんなで意見を出し合う。
- ・学んだ事を、発表する機会をもつ。

<ふりかえりワークシート例>



〇〇さんにインタビュー

1. 〇〇さんのお話を聞きながら記入しましょう。

	自分	さん
年齢は？		
誕生日は？		
住んでいる場所は？		
よく行く所は？		
好きな食べ物は？		
苦手な食べ物は？		
好きな教科は？		
苦手な教科は？		
得意なことは？		
好きなことは？		
苦手な事は？		
がんばっていることは？		
人に手伝ってほしいことは？		
将来の夢は？		
よく見るテレビは？		
休み時間にする遊びは？		
生活の中で困る事は？		

2. 私と〇〇さんの同じところ・似ているところはどんなところですか？
3. 私と〇〇さんの違うところはどんなところですか？
4. 〇〇さんの素敵なおところはどんなところですか？
5. 交流をとおして、どんなことを感じましたか？

参考：
長野県社会福祉協議会
「福祉教育実践ガイド」

総合学習の企画に迷うことがあれば、まずは西区社協へお電話ください。

西区社会福祉協議会 025-211-1630

子どもたちの学びを一緒に考えさせてください。

【参考文献】

- ・「福祉教育の理論と実践方法～共に生きる力を育むために～」
原田正樹 著 全国社会福祉協議会 全国ボランティア・市民活動センター発行
- ・社会福祉法人 全国社会福祉協議会 福祉教育リーフレット
「地域との連携によりはぐくむ ともに生きる力」

【様式ダウンロード】

新潟市西区社会福祉協議会ホームページ

<https://niigatanishiku-syakyo.jp/>



【お問い合わせ】

社会福祉法人 新潟市社会福祉協議会

西区社会福祉協議会/西区ボランティア・市民活動センター

〒950-2054

新潟市西区寺尾東3丁目14-4 | 西区役所健康センター棟1階

TEL:025-211-1630 FAX:025-211-1631

メール:ward-csw.w@syakyo-niigatacity.or.jp



令和4年4月26日版



見逃さず受けとめ、
つなぎ、共に創る社協